

2. 環境保全業務報告

京都大学環境ファクトシート

エコ～ると京大2015 ～初夏の陣・秋の陣・冬の陣～ 実施報告

京都大学環境科学センター 浅利 美鈴

学生・院生コアメンバー（安藤悠太、新郷大輔、横山恵利香、西堀功規、
小野塚佳代、大木晴香、川崎康太、田中仁海、福田将矢、山口優輔、山口凜）

1. はじめに

全員参加型で環境負荷を低減した持続可能なキャンパスの実現を目指す強化イベントとして、「エコ～ると京大 2015」を開催した。環境月間である 6 月にあわせ、1 ヶ月間、吉田キャンパスを中心に様々な企画を展開した。なお、「エコ～ると京大」とは、エコ×世界（ワールド）からの造語であり、「Think globally, Act locally, Feel in the Campus!」のメッセージをこめると同時に、京大の中でエコを学ぶ学校（École とはフランス語で学校）を多様な形で開校する意味もこめたものである。6 月一か月間の初夏の陣のほか、秋や冬、春の企画に加え、SNS を用いた通年での取組も始めた。

★写真は冒頭のカラーページでご紹介しています。

2. 初夏の陣（6 月）

環境月間である 6 月は、一か月間に渡り様々な企画を実施し、できるだけ多くの構成員の参画を促すことを目的とした。

2.1 オープンラボ

6 月 2 日から 29 日の間は、京都大学生協ルネ 1F に、「京都大学で環境学を考える研究者たち」のオー

ブンラボが出現し、多様なアプローチで環境問題に迫る 12 名の研究者（フィールド科学教育研究センター・伊勢先生、地球環境学堂・宇佐美先生、Singer 先生、森先生、思修館・山敷先生、Ialnazov 先生、磯部先生、総合博物館・村上先生、工学研究科・野中先生、エネルギー科学研究科・McLellan 先生、放射性同位元素総合センター・角山先生、環境科学センター・浅利）が日替わりで駐在した。今年は、マイカップでドリンクを楽しめ、フェアトレードコーヒーやはちみつドリンク、多国籍のお茶が、会話をより一層盛り上げた。また、クスノキ染めやリメイク、風呂敷包み体験コーナー、エコアート作品も人気を博した。

2.2 ナイルビール de サステナブルナイト

15 日の週は、京都大学生協カンフォーラとの連携で「ナイルビール de サステナブルナイト」と銘打った環境配慮型ビアガーデンを展開した。廃油と桂キャンパスの竹などを活用したエコキャンドルが彩を添えたほか、地（学内）産地消の食材やリユースカップなどが活躍した。19 日には、参加者とともに京都大学の創立 118 周年をキャンドルで祝った。

2.3 くすフェス

20日には、京都大学時計台百周年記念館とその周辺で「くすちゃんフェスタ」（くすちゃんは、京都大学の環境取組のキャラクター）を開催した。記念館1Fホールでは、学内団体等（Crazy Clef（アカペラ）、彩京前線（よさこい）Pumpit（国際ボランティアサークル）、京都ジャングル（生き物企画）、京大カレー部、Tock'n roll（弾き語り）、夢創の里（ゆるキャラダンス）、西京中学校吹奏楽部、竹上久美子さん（シンガーソングライター）及び大五郎さん（同左））がエコパフォーマンスを繰り広げたほか、ごみ削減をテーマとした特別シンポジウムを開催した。

記念館周辺では、様々な団体によるブースやチャリティーバザーが開かれた。京都市や水俣市によるブースでは、最新の環境行政について丁寧な説明が行われ、熱心に話し込む様子が見られた。「京都・暮らしのREデザイン研究所」や「野中先生（工学研究科）と仲間たち」のブースでは、食と環境の関係について、実物も味わいながら語らう様子が見られた。リメイク体験では、「日本環境保護国際交流会（J.E.E.）」によるクスノキ染めや「布遊工房」による様々な布リメイクを楽しむ姿が見られた。また、北白川ごみ減量推進会議や川東地域ごみ減量推進会議を始め、学内外の関係者から集めたチャリティー品を販売するバザーにも多くの人が来られ、3万円の売り上げとなった。これは特定非営利活動法人国連UNHCR協会を通して国際貢献に役立てて頂いた。

歌あり、食あり、学びあり、動物とのふれあいありと、多様な環境問題との出会いに、多くの参加者が充実した1日を過ごした。

2.4 コラボ企画、ぬか漬けチャレンジ

学内外の団体と連携した企画としては、エコクッキング教室や環境関連教材を開発するワークショップなども開催した。

また、SNSを活用して「1日1エコ（1つでも良いので環境配慮行動を実践することの積み重ねが重要であるとの想いをこめている）」を訴求するプロジェクトも展開した。1日1人（組）のエコメッセージを

Facebook（<https://www.facebook.com/ecosengen>）

で発信するものであるが、「ぬか漬け」をバトンに見立てて、つないでいった。天地返ししながら、個性豊かなメッセージが飛び出したが、同時に、ぬか漬けを始めとする保存食や食材の活用など、先人の知恵に想いを馳せる機会にもなった。なお、この企画は通年・継続企画として現在も続いているところである。

※参加協力団体：京都大学生協、環境サークルえこみっと、京都ジャングル、京都大学で環境学を考える研究者たち、京都造形芸術大学有志、ブルーシーフードプロジェクト、Tera School、大五郎、日本環境保護国際交流会（J.E.E）、布遊工房、びっくりエコ発電所、ウィークックナビ

3. ロックフェラーさんとブルーシーフードカレーを食べよう！（11月17日）

海の環境保全は、とりわけ日本人にとって、生活にも密接にかかわる重要な環境・持続可能性のテーマである。長年その保全活動に取り組まれているデイビッド・ロックフェラー・ジュニア氏（セイラーズフォーザシー名誉会長；米国ロックフェラー財団第12代会長）をお迎えし、海洋環境の実態やその保全活動について話を伺う企画を実施した。また、最も身近なアクションの一つとして、「食」を通じた貢献の一つ「ブルーシーフード（※）」について紹介し、ブルーシーフードカレーとして、実際に参加者全員で味わった。

当日は小雨が降る中、思い思いに青い物を身にまとった人、総勢250人が総合研究8号館NSホールに集まった。ロックフェラーJr氏による講演の後、京都大学生協が試行錯誤でレシピを編み出した「ブルーシーフードカレー」に舌鼓を打った。なお、このカレーは近々商品化される予定である。

※ブルーシーフードとは？：温暖化や気候変動、乱獲などによって海洋資源が枯渇するなか、資源量が比較的豊富な魚種を「ブルーシーフード」と認定することで、消費者に資源量の豊富な魚種を進め、海洋資源の回復に寄与しようとするプログラム。セイラーズフォーザシー日本支局が海洋資源保全の目的で行っている活動のひとつ。セイラーズフォーザシー日本支局ではいくつかのレストランと提携し、ブル

ーシーフードを使用したメニューを提供している。
京都大学の学食も提携先の一つであり、京都大学の
学生メンバーもかかわっている。

さらに詳しい情報は

<http://sailorsforthesea.jp/blueseasfood>

4. 11 月祭出店

エコ〜るど京大の活動や、環境・持続可能性に関する取組を本学の学生に広めるため、11 月祭（NF）への出店を行った。模擬店では教員やサポーターの方々と学生が食べ飲みつつ熱い議論ができる空間作りを目指した。また学生来場者にはエコ〜るど京大の Facebook ページやホームページへのアクセスを促進するため、Facebook ページにその場で「いいね」を押してくれた学生や、マイカップを持参しエコ活動に協力してくれた学生にはドリンクの無償提供などを行った。前夜祭から本祭にかけて継続した働きかけにより、目標としていた Facebook 「いいね」1,000 人を達成することができた。

5. 冬の陣（12 月 17 日）

環境・持続可能性を考えた働き方や企業・仕事選びについて考える企画を実施した。

参加企業・団体（(株)エフピコ、JFE エンジニアリング株式会社、(株)神鋼環境ソリューション、太平洋セメント(株)、ディスコ、京都産学公連携機構、OECD（環境省より出向中）、京都市、三機工業(株)、(株)タカノ、江崎グリコ(株)、(株)マイファーム、京都新聞 COM、滋賀銀行）ごとのグループに分かれて、仕事内容・社会貢献などの魅力を探しインパクトのある PR 素材を作るコンペを実施した後、交流会で意見交換を行った。コンペについては、当日参加者による会場投票に加え、Facebook で発信し、「いいね」獲得数が多いものを選んだ。